

「いじめゼロ 不登校ゼロのまち 入善」の取組

～ 第2回 心の教育研修講座 ～



1月22日（火）に第2回心の教育研修講座を開催しました。東部教育事務所生活指導主事 柴田 孝枝 先生を講師にお迎えし、「児童虐待についての理解と対応」という研修題でご講演いただきました。

参加された方々から、『子供の行動の裏面には、原因がある』という視点は、子供をどう捉え、どう改善を図っていくかという面から大変重要なことと分かった。この子供観を忘れないように心掛けたい」「虐待は身近な問題であると改めて感じた。児童の見せるサインを見逃さないように対応していきたい」「今回の話を聞いて『もしかしたら』という視点も大切だと思った。また、子供たちや保護者への接し方の新しい視点を教えていただき、大変勉強になった」等の感想が寄せられました。

実践的で効果的な生徒指導について大変分かりやすくご指導いただき、今後の取り組み方についての多くの示唆を得ることができました。



～ 内地留学報告 ～



「内地留学を終えて」

入善町立桃李小学校 教諭 樋口 佳織

5月から3か月間、富山大学人間発達科学部附属人間発達科学部研究実践総合センターで「一人一人の児童理解と支援」をテーマに研修する機会をいただきました。

教師の仕事に就いて8年目を迎えました。子供たちへの支援に悩むことが増えたり、実態に応じた支援の大切さを感じたりするようになりました。また、校務分掌では、生徒指導主事を担当することになり、全校児童の生徒指導上のトラブルに関わることが多くなってきました。そのような中、研修の話をいただき、自分自身のスキルアップのため、研修させてもらおうと決めました。

今回の研修では、子供の発達段階に応じた指導や支援の大切さ、そして、学習環境や子供たちができていることに目を向けた指導、支援の在り方について学ぶことができました。ただ、子供たちの実態や声を掛けるタイミング、教師との関係など、状況は様々で、これらの支援が全てではないという思いもあります。また、これまでの、自分の8年間の経験における感情や感覚だけで子供たちと関わってきたように思います。

今回の3か月間の研修では、文献や講義などを通して多くの知識を得ることができました。その得た知識を目の前の子供たちの支援に生かしていきたいと考えています。しかし、現実はなかなかうまくはいかないこともあります。迷うことも多くありますが、よりよい支援の方法を模索しながら、子供たちの成長に携わっていきたいです。さまざまな支援の在り方を知識としてもっていることが自分の強みになると信じ、今後の指導に役立てていきたいと思っています。

1月22日（火）に内地留学報告会を開催しました。「一人一人の児童理解と支援」と題して、入善町立桃李小学校 樋口 佳織 先生にABC分析や解決志向ブリーフセラピーなど、児童理解と支援の具体的手法について分かりやすく報告をしていただきました。

是非とも、各学校での実践に生かしていただきたいと思っています。





新任教員の紹介



「教師になって」

黒東小学校 教諭 山ノ下 千佳

今年度の4月から、教員になり、初めは不安ばかりの毎日でした。この1年、わたしにとっては全
てのことが初めてで、日々の仕事の大変さを実感し、学校に慣れることで精一杯でした。

このような中、私の頑張る源となったのは、子供たちの元気な声や明るい笑顔でした。休み時間
には、一緒に日常のたわいのない話やドッジボールをして、一緒に時間を過ごすようにしました。話を
たくさんすることで、子供たちのことがだんだん分かってきました。学習においても、問題が解けた
ことに喜ぶ姿や協力して活動する姿等、頑張る姿にたくさん出会うことができました。日々成長する

子供たちに寄り添えることは、大変やりがいがあると感じました。来年度は、先のことへ見通しをもち、早く仕事に取り掛
かることと、子供たちがもっと「やってみたい」「面白そう」と興味をもって取り組むことができる授業づくりに励んでい
きます。



「感動」

飯野小学校 教諭 松木 有紗

子供の頃からの夢であった教師になって約1年。出会ったときからたった1年で、子供たちが驚く
ほど成長していることが目に見えて伝わってきます。学校行事の一つである「大縄跳び大会」に向け
て練習をしているときのことでした。初めてタイムを測ったときには、全く跳べない子が数名いて、
隣のクラスとの差は20回。結果は43回でした。何度も何度も作戦会議を行い、どうしたら多く跳
べるのかを子供たちと一緒に考えてきました。真剣に話し合う姿には感心させられました。ある体
育の時間。今までにないくらい連続で跳ぶことができました。跳んでいると、子供たちの数える声

段々と大きくなって、クラスの一体感を感じ、鳥肌が立ちました。大会では目標の80回には届きませんでしたが、あの
ときの感動は忘れられません。子供たちがぐんぐん成長する中で、多くのことを学び、共に成長できることに喜びを感じなが
ら、一日一日を大切にしていきたいです。



「養護教諭として」

ひばり野小学校 養護教諭 南保 美智

学生時代、「先生って、名前に“保”が付くから保健の先生になるの？」と、ボランティア先の小
学生に言われました。「いやいや、そんな理由では…」と思いながらも、大発見をしたかのようにし
ていた、その子の顔が忘れられず、着任式では、苗字と保健にふれて挨拶をしました。

11月に開催した学校保健委員会では、保健委員会の子供たちと感染症予防と手洗いについてのビ
デオ作成に挑戦しました。シナリオや小道具、衣装等に子供のアイデア満載のビデオは、ひばり
っ子たちが自ら手をしっかり洗いたいと思い、実践につながるものとなりました。

着任当初は目の前のことで精一杯でしたが、多くの先生方のご指導や支えのおかげで、今では少
しだけ心に余裕をもち、子供たちとの関わりを大切にしたい日々を過ごせているように思います。保健室に来た子供の“何か
いつもと違う”サインに気付き、体と心の両面から支えていくことのできる養護教諭を目指し、焦らず、弛まず学び続け
ていきたいです。



「学ぶ気持ちを忘れずに」

入善中学校 教諭 藤木 将人

教師になって約1年が過ぎました。昨年の4月に教師になった日が、ついこの間のことのように感じま
す。私は、この1年間でこれまで経験したことのない多くのことを学びました。

一つは授業についてです。これまで授業を「受ける」側だった私が、教師として授業を「行う」側にな
り、とても緊張したのを覚えています。最初は手探りで授業を行い、基本的なことを十分に指導できてい
ませんでした。しかし、互見授業や研修を通して、授業改善についての助言をたくさんいただき、効率的
な授業の進め方が少しずつ分かってきました。これからも、「生徒の自主性を育てる分かる授業」を目指
し、授業改善に努めたいと思います。

学級経営については、何も分からなかった私を、全校の先生方が支えてくださり、その場に応じた助言
をいただきました。いただいた助言は、その場の対応だけでなく、その後の生徒指導にも生かすことができました。

あっという間に過ぎていった1年間ですが、教師になって経験をしたことは私の財産になっています。これからも「学ぶ気持ち」
を忘れず、日々努力してまいります。



「こんなクラスに居たい」

入善中学校 教諭 岡崎 朋哉

毎日学校に行くことが楽しみな中学生だった。休み時間の友達との交流だけではなく、授業
においても、人と話したり関わったりすることは、楽しいと感じていた。放課後、日が沈むま
で遊んだ日々が懐かしく、中学校での生活は私の原体験となっている。

「中学生当時、自分が過ごした教室はどんな様子だったのだろう。」と思い返すことがある。
4月に新しい学級を担任することが決まると「こんなクラスにしたい」とあれこれ自分の理想
を考える。しかし、生徒の本音はどんなのだろう、願いは何なのだろうか。教師の視点で「こ
んなクラスにしたい」と考え学級を経営する場合と、生徒の視点で「こんなクラスに居たい」と考えながら学級を經
営する場合とでは、その後の結果が違ってくるのではないかと考えるようになった。

生徒の思いを想像することには限りがある。だからこそ生徒との対話を丁寧に行い、一層の生徒理解に努めたい。